

別添 1

厚生労働科学研究費補助金

統計情報総合 研究事業

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発

平成28年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 木下 博之

平成 29 (2017) 年 5 月

目 次

I . 総括研究報告	
適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発	----- 1
木下博之	
(資料) 適切な原死因記載のための e-ラーニングシステム	
II . 分担研究報告	
1 . 適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発	-----101
池松和哉	
2 . 適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発	-----103
横田順一郎	
3 . 適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発	-----105
加藤稲子	
4 . 適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発	-----107
鷲見幸彦	
5 . 適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発	-----109
横井英人	
6 . 適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発	-----111
宮武伸行	
III . 研究成果の刊行に関する一覧表	-----113

平成28年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）
（総括）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発（28020201）

研究代表者 木下 博之 香川大学医学部 教授

研究要旨

本研究では、標準的な記載例集を作成し、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載するための教育コンテンツの開発と普及・啓発を目的とする。

本年度は、実際の事例をベースとした模擬事例を設定し、原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）とあわせて不適切な記載例およびその解説を作成した。医師の自学自習に活用できるよう、e-ラーニングのシステム構築も併せてすすめた。

次年度は、本年度に作成した事例集を用いて、その教育効果の検証を行う。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

池松 和哉・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・法医学分野 教授

横田順一郎・独立行政法人 堺市立病院機構 副理事長

加藤 稲子・三重大学大学院周産期発達障害予防学講座・小児科学 教授

鷺見 幸彦・国立長寿医療研究センター・神経内科 副院長

横井 英人・香川大学医学部附属病院・医療情報部 教授

宮武 伸行・香川大学医学部人間社会環境医学講座・衛生学 准教授

A．研究目的

本研究は、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載するために、標準的な記載例を作成し、その普及・啓発のための教育コンテンツの開発を目的とする。

B．研究方法

研究開発の内容は大きく、事例と標準的記載例を中心とするコンテンツの作成と、作成したコンテンツを用いた教育効果について、特に現場の医師を対象として評価を行う。研究初年度の本年度は 標準的記載例の作成

を中心に行う。

各分担研究者、研究協力者の過去の経験、学会や検討会、カンファレンスなどで伝聞した情報も含め、それぞれの専門領域における比較的典型的な事例を収集し、問題となる点や課題、あるいは死亡診断書・死体検案書の記載が困難な点を抽出した。それらの問題点や課題を基に、学習用の事例を作成し、ICD-10の原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）を作成する。あわせて不適切な記載例およびその解説も作成した。またそれらの記載例については、研究班員全員でのブラッシュアップを行い、様式の統一を図った。

（倫理面への配慮）

事例集の作成に際しては、研究代表者、研究分担者の過去の経験も参考にすが、個人情報や個人が特定できるような内容は含まない。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、因果関係の記載が困難な例、あるいは記載方法の判断に迷うと考えられる各領域（外因死、小児医療、高齢者医療、救急医療等）での事例について、20例の事例を設定し、それぞれについて不適切な記載例と模範記載例（標準的記載例）、さらにそれらの解説を作成し、現在、それらの事例集の内容の充実と、事例集

を基礎としたe-ラーニングのシステム構築について検討を行っている。

D．考察

死亡診断書、死体検案書は人間の死亡を医学的・法律的に証明することのみならず、わが国の死因統計を作成する際の資料となる。死因統計の基礎となるのが死亡診断書・死体検案書の記載内容であり、死因欄に記載された傷病から死因選択ルールにより原死因を選び、死因が分類される。

死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会経済的に広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。そのため、医師は死亡診断書・死体検案書の作成にあたり、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを熟知しておく必要があるが、現状の重要性についての意識・認識は必ずしも十分ではない。

本研究ではまず事例集を中心とした教育コンテンツを作成した。この評価については次年度に行う予定であるが、これを活用することで適切な記載に関する知識を普及させるとともに、適切な原死因選択を行うことの重要性も啓発していく。これらの活動を通じて、原死因選択方法についての周知と記入に関する意識の向上が、直接的・間接的に死因の精度向上につながるものと考えられる。さらには死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進や福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

E．結論

死亡診断書・死体検案書作成の際に、因果関係の記載が困難な例、あるいは記載方法の判断に迷うと考えられる例について、実際の事例に基づく課題を設定し、それぞれについて不適切な記載例と模範記載例（標準的記載例）、さらにそれらの解説を作成した。これら本研究の成果は、死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1. 論文発表

Tanaka N, Takakura A, Jamal M, Kumihashi M, Ito A, Ishimoto S, Tsutsui K, Kimura S, Ameno K, Kinoshita H. Stomach gas as a useful matrix for detecting ante-mortem gas exposure. A case of asphyxia by helium inhalation. Rom J Leg Med. 2016; 24: 21-22.
Tanaka N, Takakura A, Jamal M, Kumihashi M, Ito A, Tsutsui K, Kimura S, Ameno K, Kinoshita H. Detection of kerosene in stomach contents - useful indicator of vital reaction. Rom J Leg Med. 2016; 24: 128-130.

Kinoshita H, Tanaka N, Takakura A, Kumihashi M, Jamal M, Ito A, Kimura S, Tsutsui K, Nagasaki Y, Mastubara S, Ameno K. Detection of butane metabolites as an indicator of butane abuse. Rom J Leg Med. 2016; 24: 216-218.

横田順一朗：特殊な受傷機転．JPTECガイドブック．へるす出版、東京；178-183，2016

横田順一朗（編集委員長）：外傷初期診療ガイドラインJATEC改訂第5版、へるす出版、東京、2016

2. 学会発表

宮武伸行、木下博之．窒息死の季節性、気温との関連．平成28年度香川県医学会，2016年11月3日，高松市．香川国際会議場

木下博之．Aiについて．平成28年度香川県医学会，2016年11月3日，高松市．香川国際会議場

池松和哉．死亡診断書・死体検案書の作成に関する留意点．長崎県医師会・警察活動に協力する医師の部会第1回研修会，2016年11月5日，長崎市，長崎県医師会館

谷川原 綾子，辻 真太郎，福田 晋久，西本 尚樹，小笠原 克彦，横井 英人．医療機器不具合用語集のハンドリングツール構築に向けた同義語候補の同定に関する検討．第20回日本医療情報学会春季学術大会，2016年6月4日，島根県松江市

谷川原 綾子，西本 尚樹，辻 真太郎，福田 晋久，谷川 琢海，上杉 正人，小笠原 克彦，横井 英人．医療機器不具合用語集に

における同義語抽出に向けた異義語除外法の検討．第36回医療情報学連合大会，2016年11月23日，神奈川県横浜市

小野 大樹，横井 英人，中園 美香．医療機器等における不具合等報告の「健康被害・不具合状況」から「回収（改修）」につながる事象推定の試み．第36回医療情報学連合大会，2016年11月24日，神奈川県横浜市

ログイン画面



ユーザーID (メールアドレス)

パスワード

自動的にログイン (2週間有効)

パスワードを忘れた場合は[こちら](#)

edenはクラウド型eラーニングサービスです。
詳しくは[eラーニングシステム eden](#)の
サイトをご覧ください。

【Q1】

90歳女性。生来健康。既往歴特になし。

今まで検診の受診は不規則であった。平成X年度〇〇市の肺癌検診で、直径約3cmの異常陰影を指摘され、精密検査の結果、左肺上葉扁平上皮癌と診断された。平成X年10月1日、A病院で左肺上葉切除術を施行された。術前、術中の評価により、転移は特に認められなかった。

術後、10月3日より、著明な呼吸苦が出現、胸部単純写真、胸部CT写真で肺炎を認め、抗生剤等を用いた治療を行ったが、次第に症状が悪化し、10月10日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょう。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>術後肺炎</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>約1週間</p>	
	I	(ア) 直接死因				
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
	II	(エ) (ウ)の原因				
	手術	<p>1 無 <input checked="" type="radio"/></p>	<p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>昭和 年 月 日</p>		
解剖	<p><input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 2 有</p>	<p>主要所見</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="radio"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死</p>					
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>		
	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>	<p>手段及び状況</p>				

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	術後肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1週間
		(イ) (ア)の原因	原発性左肺上葉扁平上皮癌		不詳
		(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
(エ) (ウ)の原因					
II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
手術	1 無 2 有	①	部位及び主要所見 左肺上葉切除術を施行。左肺上葉に扁平上皮癌があったが、転移なし。	手術年月日	昭和 X年10月1日
解剖	① 無 2 有		主要所見		
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	市 区 町 村	
	手段及び状況				

【解説】

本文からは、死因は左肺上葉切除術後の術後肺炎と推察されます。

直接の死因は術後性肺炎ですが、その原因となった傷病名「原発性左肺上葉扁平上皮癌」をⅠ欄(イ)に記載します。悪性新生物は原発、転移の別、病理組織型、部位をわかる範囲で記入します。また、Ⅰ欄、Ⅱ欄の傷病名と関係がある手術を行っていただきますので、手術欄には手術を行った疾病と主要所見「転移なし」を記入します。

【Q2】

65歳男性。50歳時より近医で高血圧の治療歴あり。家庭血圧はやや高く150/90 mmHg 程度であった。

平成X年2月10日早朝、朝食もとらずに近所へ散歩に出かけた。なかなか帰宅しないため、家人が探したところ、家の玄関前で倒れているのを発見され、救急車で市内B病院に搬送された。搬送時、頭部CT検査で、脳幹出血を認めた。その後、ICUへ入院、人工呼吸器を装着するも、翌2月11日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因 高血圧による脳幹出血</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>1日</p>	
	I	(イ) (ア) の原因				
		(ウ) (イ) の原因				
		(エ) (ウ) の原因				
	II	<p>直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>				
	手術	<p>① 有 2有</p>	<p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p>	<p>平成 年 月 日</p> <p>昭和 年 月 日</p>	
解剖	<p>① 無 2有</p>	<p>主要所見</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>		
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>				
	<p>手段及び状況</p>					

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>脳幹出血</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>1日</p>	<p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3か月、5時間20分)</p>	<p>約15年</p>	
	I	(イ) (ア)の原因					高血圧
		(ウ) (イ)の原因					
		(エ) (ウ)の原因					
	II	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>					
	手術	<p>② 2有</p>	<p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p>	<p>平成 年 月 日</p> <p>昭和</p>		
解剖	<p>① 無 2有</p>	<p>主要所見</p>					
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>						
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>			
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>					
	<p>手段及び状況</p>						

【解説】

本文からは、死因は高血圧による脳幹出血と推察されます。

直接の死因は脳幹出血で、その原因となった傷病名が「高血圧」です。傷病名は簡潔に記入し、文章での記入ではなく、I 欄に因果関係がわかるように（ア）に脳幹出血、（イ）に高血圧を記入します。また、「脳出血」ではなく、部位がわかるものは「脳幹出血」のように部位を記入します。

【Q3】

80歳男性。60歳時より近医で2型糖尿病の治療歴(インスリン使用)あり。HbA1cは9%程度と血糖コントロールは不良であった。

平成X年4月10日頃より感冒様症状があり、4月11日に近医受診、胸部X線写真で右下葉に肺炎像を認め、市内のC病院へ入院となった。入院後クレブシエラ肺炎と診断され、抗生剤等の治療を開始した。症状はなかなか改善せず、5月10日ごろより、膿胸の所見を認め、抗生剤の変更、ドレナージ等も行った。5月15日午前10時頃より突然ショック状態となり、同日午後0時15分死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>敗血症性ショック</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>2時間15分</p>	<p>◆年、月、日等の単位で書いてください</p> <p>ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください</p> <p>(例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>5日</p>	<p>1か月</p>	
	I	(イ) (ア)の原因						膿胸
		(ウ) (イ)の原因						クレブシエラ肺炎
		(エ) (ウ)の原因						
	II	<p>直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>						
	手術	<input checked="" type="checkbox"/> 有 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日	昭和 年 月 日		
	解剖	<input checked="" type="checkbox"/> 有 2有	主要所見					
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 }</p> <p>6窒息 7中毒 8その他</p> <p>その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 </p> <p>12不詳の死</p>							
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>	<p>市区町村</p>			
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>						
	手段及び状況							

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名稱				
	I	(ア) 直接死因	敗血症性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約半日
		(イ) (ア)の原因	膿胸		5日
		(ウ) (イ)の原因	クレブシエラ肺炎		1か月
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	2型糖尿病	◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例：1年3か月、5時間20分)	20年
手術	<input checked="" type="checkbox"/> 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	<input checked="" type="checkbox"/> 2有	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	市 区 都 町村	
	手段及び状況				

【解説】

本文からは、死因はクレブシエラ肺炎から膿胸、敗血症性ショックになったものと推察されます。

最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番に記入します。「糖尿病」は直接死因には関係していませんが、I 欄の傷病等の経過に影響があると思われるので II 欄に記入します。また、発病（発症）又は受傷から死亡までの期間については、年、月、日等の単位で記入します。ただし、1日未満の場合は、時間、分の単位で記入します。発症日付を記入しないようにしてください。

【Q4】

60歳女性。生来健康。既往歴特になし。

平成X年5月10日頃より感冒様症状があり、5月15日に近医受診、胸部X線写真で右上葉に異常陰影を認め、市内D病院へ入院となった。精密検査の結果、肺小細胞癌と診断され、化学療法を開始した。外来通院で数クール of 化学療法を行い、一旦改善傾向を認めたものの、平成X+1年(翌年)2月頃より、陰影の増大及び肺内転移、脳転移を認め、呼吸状態が悪化したため、再び入院となった。次第に呼吸状態が悪化し、5月13日に死亡した。

また、同日病理解剖を行い、右上葉肺門部に径約6cmの腫瘍をはじめ、肺内多発病巣を認めた。頭部解剖は行わなかった。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>呼吸不全</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>約3か月</p>	<p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3か月、5時間20分)</p>	<p>1年</p>	
	I	(イ) (ア) の原因					原発性右上葉肺小細胞癌
		(ウ) (イ) の原因					
		(エ) (ウ) の原因					
	II	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>					
	手術	<p>① 2有</p>	<p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>昭和 年 月 日</p>			
	解剖	<p>1無 ②</p>	<p>主要所見</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>						
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>			
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>手段及び状況</p>					

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>1年</p>	
	I	(ア) 直接死因			原発性右上葉肺小細胞癌
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
II	(エ) (ウ)の原因				
手術	<p>部位及び主要所見</p> <p>① 2有</p>	手術年月日	平成 年 月 日 昭和		
解剖	<p>主要所見</p> <p>① 1無</p> <p>右上葉肺門部に径約6cmの腫瘍があり、その他肺内に多発病変が認められる。</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 1 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>① 1 無</p> <p>② 2 有</p> <p>③ 3 不明</p> <p>④ 4 その他</p> <p>⑤ 5 その他</p> <p>⑥ 6 その他</p> <p>⑦ 7 その他</p> <p>⑧ 8 その他</p> <p>⑨ 9 その他</p> <p>⑩ 10 その他</p> <p>⑪ 11 その他</p> <p>⑫ 12 その他</p> <p>⑬ 13 その他</p> <p>⑭ 14 その他</p> <p>⑮ 15 その他</p> <p>⑯ 16 その他</p> <p>⑰ 17 その他</p> <p>⑱ 18 その他</p> <p>⑲ 19 その他</p> <p>⑳ 20 その他</p> <p>㉑ 21 その他</p> <p>㉒ 22 その他</p> <p>㉓ 23 その他</p> <p>㉔ 24 その他</p> <p>㉕ 25 その他</p> <p>㉖ 26 その他</p> <p>㉗ 27 その他</p> <p>㉘ 28 その他</p> <p>㉙ 29 その他</p> <p>㉚ 30 その他</p> <p>㉛ 31 その他</p> <p>㉜ 32 その他</p> <p>㉝ 33 その他</p> <p>㉞ 34 その他</p> <p>㉟ 35 その他</p> <p>㊱ 36 その他</p> <p>㊲ 37 その他</p> <p>㊳ 38 その他</p> <p>㊴ 39 その他</p> <p>㊵ 40 その他</p> <p>㊶ 41 その他</p> <p>㊷ 42 その他</p> <p>㊸ 43 その他</p> <p>㊹ 44 その他</p> <p>㊺ 45 その他</p> <p>㊻ 46 その他</p> <p>㊼ 47 その他</p> <p>㊽ 48 その他</p> <p>㊾ 49 その他</p> <p>㊿ 50 その他</p>				

【解説】

本文からは、死因は原発性右上葉肺小細胞癌と推察されます。

疾病の終末期の状態としての心不全、呼吸不全の記入を控えます。したがって、今回の場合「原発性右上葉肺小細胞癌」をⅠ欄(ア)に記入します。

解剖を実施した場合は、解剖欄2を○で囲み、Ⅰ欄、Ⅱ欄の傷病名等に関連のある解剖の主要所見(病変部位、性状、広がり等)を記入します。

【Q5】

72歳男性。生来健康。既往歴特になし。

今まで、肺癌検診をほとんど受診したことがなかった。平成X年6月、E市の肺癌検診で肺異常陰影を指摘され、平成X年9月、F病院を受診した。精密検査の結果、左肺下葉に径8cmの巨大異常陰影を認め、気管支鏡検査の結果、肺扁平上皮癌と診断されるとともに、左副腎に転移巣を思われる径5cmの腫瘍を認めた。

入院後化学療法を開始したが、平成X+1年12月10日8時、突然、吐血、下血があり、ショック状態となり同9時に死亡した。

解剖の結果、左肺下葉に径10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤したことによる出血であったことが判明した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>出血性ショック</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	1時間	
	I	(イ) (ア)の原因			副腎腫瘍	不詳
		(ウ) (イ)の原因			肺扁平上皮癌	不詳
		(エ) (ウ)の原因				
	II	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	<input checked="" type="checkbox"/> 有 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	<input type="checkbox"/> 有 1無 <input checked="" type="checkbox"/>	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()	傷害が発生したところ 市 区 都 府 県 町 村	都道 府県 市 区 都 府 県 町 村	
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>					

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3か月、5時間20分)</p>	<p>1時間</p> <p>不詳</p> <p>不詳</p>
	(ア)直接死因	出血性ショック		
	(イ)(ア)の原因	転移性副腎腫瘍		
	(ウ)(イ)の原因	原発性左下葉肺扁平上皮癌		
	(エ)(ウ)の原因			
<p>手 術</p> <p>① 2有</p>	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日 昭和
<p>解 剖</p> <p>1無 ②</p>	<p>【主要所見】</p> <p>左肺下葉に径約10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤していた。</p>			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>			
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市 区</p> <p>郡 町村</p>
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()</p>	<p>手段及び状況</p>		

【解説】

本文からは、死因は原発性左肺下葉扁平上皮癌が副腎転移を起こし、胃への直接浸潤から出血、出血性ショックをきたし死亡したと推察されます。

直接の死亡となった傷病名を(ア)欄に、(ア)欄の原因となる傷病名があれば(イ)欄に、(イ)欄の原因となる傷病名等があれば(ウ)欄に記入します。悪性新生物は、原発、転移の別、病理組織型、部位をわかる範囲で記入します。したがって、I欄(ウ)は、「原発性左肺下葉扁平上皮癌」を記入します。

解剖を実施した場合は、解剖欄2を○で囲み、I欄、II欄の傷病名等に関連のある解剖の主要所見(病変部位、性状、広がり等)を記入します。

【Q6】

80歳女性。もともと頸椎症が存在したが、76歳時に転倒して中心性頸髄損傷をきたし、不全麻痺の状態であった。

8月7日、午前9時10分頃に自宅室内で転倒し、それまで何とか自己摂取していた食事がとれなくなった。転倒当日の近医での頭部CT検査では、出血はなかった。

4日後に意識レベルが低下し、当院に緊急搬送。低Na血症と誤嚥性肺炎を認め入院した。入院後の頸髄MRIで脊髄損傷の増悪があり、誤嚥性肺炎は抗生剤投与で軽快したが、経口摂取は改善せず、他の栄養手段を希望されなかったため、入院後3か月で永眠された。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなくてください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>老衰</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	1日
	I	(ア) 直接死因			
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
	II	(エ) (ウ)の原因		<p>数か月</p>	
	手術	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p> <p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日		平成 年 月 日 昭和
解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>				
(15)	死因の種類		<p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>		
(16)	外因死の追加事項		<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>
	<p>◆1欄又は2欄に記載されていない場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>		<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>		

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなくてください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	摂食機能障害	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約3か月
		(イ) (ア)の原因	頸髄損傷		約3か月
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 ③転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生した日時</p> <p>平成 昭和 X 年 8 月 7 日 午前 午後 9 時 10 分</p>	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>①住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>	<p>傷害が発生したところ</p> <p>XX 〇△ 〇</p>	<p>都道府県</p> <p>区 町村</p>
<p>手段及び状況</p> <p>自宅室内で転倒したという。</p>					

【適切な記載2】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称					
	I	(ア) 直接死因	摂食機能障害		発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください （例：1年3か月、5時間20分）	約3か月
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
		(エ) (ウ)の原因				
	II	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		頸髄損傷		約3か月
手術	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	主要所見				
(15)	死因の種類 <input checked="" type="checkbox"/> 1 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死					
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	傷害が発生したところ 市 区 都 町村	都道府県 市 区 都 町村	
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況					

【解説】 老衰は高齢者の死因として挙がりやすい病名である。複数の疾患を併せ持つ高齢者では、死因を特定できないことも多い。また在宅で特に誘因もなく亡くなった際には、「老衰」としか記載できない場合もある。しかし、病院に一定期間入院し、死因が特定できるにも関わらず、老衰という診断を付けるのは一考を要する。地域によっては「老衰」という診断は天寿を全うできたということで、家族から喜ばれるので意図的につけることもあるという。

死因統計の観点からは「老衰」の診断名には高齢者で他の死因が特定できない場合にのみ用いる。

転倒の関与については主治医の判断によるが、転倒が死亡に直接関与したものでないと判断した場合は、「Ⅱ 直接には死因に関与しないがⅠ欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等」に頸髄損傷を記載することもある。

不慮の転倒の場合は死因の種類は「3.転倒・転落」を選択し、外因死の追加事項を記載する。

【Q7】

74歳女性。X年7月に熱中症で他院に入院時した際に血小板減少(6.1万)を指摘され、9月に血液内科のある総合病院を紹介受診し、骨髄異形成症候群と診断された。ご本人と相談の上、10月から入院して化学療法が開始されたが、汎血球減少が著明で本人の苦痛も強いため1クールで中止した。10月下旬に転倒し、前額部に挫創がみられた。意識障害や特記すべき神経学的所見なし。11月に入り発熱が反復し、11月10日から言葉がでにくいとの訴えあり、頭部CTで左前頭頭頂部に硬膜下血腫。四肢麻痺なし。脳外科にコンサルテーションしたが、緊急手術の適応はないと判断された。その後炎症反応の悪化、播種性血管内凝固の状態となり、血圧低下、意識レベルが低下し11月14日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>急性硬膜下血腫</p> <p>骨髄異形成症候群</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	4日	<p>平成 年 月 日</p> <p>昭和</p>	
	<p>I</p> <p>(ア) 直接死因</p> <p>(イ) (ア)の原因</p> <p>(ウ) (イ)の原因</p> <p>(エ) (ウ)の原因</p>				4か月		
	<p>II</p> <p>直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>						
手術		<p>①無 2有</p>	部位及び主要所見	手術年月日			
	解剖	<p>①無 2有</p>	主要所見				
(15)	死因の種類	<p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>			
		<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>				
	手段及び状況						

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名 称		<p>播種性血管内凝固</p> <p>敗血症</p> <p>骨髄異型性症候群</p>	<p>発病（発症）又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください（例：1年3か月、5時間20分）</p>	3日	<p>疾病の種類</p> <p>1 急性心不全</p> <p>2 呼吸不全</p> <p>3 脳血管障害</p> <p>4 敗血症</p> <p>5 骨髄異型性症候群</p> <p>6 急性硬膜下血腫</p> <p>7 手術</p> <p>8 解剖</p> <p>9 死因の種類</p> <p>10 外因死の追加事項</p>
	(ア) 直接死因				14日	
	(イ) (ア) の原因				4か月	
	(ウ) (イ) の原因					
	(エ) (ウ) の原因		4日			
	<p>Ⅱ</p> <p>直接には死因に関係しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p> <p>急性硬膜下血腫</p>					
<p>手術</p> <p>○ 2有</p> <p>部位及び主要所見</p> <p>手術年月日 平成 年 月 日</p>						
<p>解剖</p> <p>○ 2有</p> <p>主要所見</p>						
<p>(15)</p> <p>死因の種類</p> <p>○ 1有及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>						
<p>(16)</p> <p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p> <p>1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>			
	<p>手段及び状況</p>					

【解説】 終末期に複数の病態が錯綜することはしばしばみられる。本例では確かに硬膜下血腫はみられるもののその程度は軽く、意識障害の原因や直接死因とは考えにくい。むしろ汎血球減少の結果ひき起こされた、敗血症、播種性血管内凝固により微小血栓がおり、あわせて敗血症性ショックに至った可能性が高いと考えられることから、硬膜下血腫は、I 欄の傷病経過に影響を与えたものと評価した。

【Q8】

90歳男性。高度の認知症(病型不詳)で施設入所中。
食欲不振、傾眠が出現し、X年11月に入院した。経口摂取を試みるが誤嚥性肺炎を発症し、絶食にて中心静脈栄養を受けていた。入院後も食べようとする意欲なく、何とか口腔内に食事を入れても十分嚥下できなかった。家族と相談し、中心静脈ラインの再留置、胃瘻や経鼻経管栄養は行わないことになり、入院後1か月で永眠された。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>るいそう</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	数か月	
	I	(イ) (ア)の原因			認知症	不詳
		(ウ) (イ)の原因				
		(エ) (ウ)の原因				
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	主要所見				
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="radio"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()	傷害が発生したところ 市 区 都 府 県 町 村	都道 府県 市 区 都 府 県 町 村	
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>					

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>るいそう</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	数か月	
	I	(イ) (ア)の原因			摂食障害	数年
		(ウ) (イ)の原因				
		(エ) (ウ)の原因				
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	主要所見				
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="radio"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村		
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種別 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()				
	手段及び状況					

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>摂食機能障害</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	約1か月	
	I	(ア) 直接死因			認知症	不詳
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
	II	(エ) (ウ)の原因				
	手術	<p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日		
解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>					
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>		
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>			

【解説】 このようなタイプの摂食障害は高齢者の終末期にしばしば遭遇するが、これまで摂食障害は年齢に関係なく、F50精神障害と分類されることが多かった。平成28年12月14日に開催された第6回死因選択検討ワーキンググループでの検討で、死亡診断書に「摂食障害」と記載されている場合、死亡時年齢が50歳未満の事例は「F50.9摂食障害、詳細不明」に分類する。死亡時年齢が50歳以上で、死亡診断書に「精神及び行動の障害」であることが類推される記載がない場合は「R63.8食物及び水分摂取に関するその他の症状及び徴候」に分類する。また、「F50.9摂食障害、詳細不明」とともに食物摂取の障害を引き起こす病態が記載された場合は、その病態を原死因として選択する。という改訂案が示された。今後より病態に即した分類になるものと思われる。

【Q9】

84歳 女性。X年12月11日 午前6時10分頃、新聞を取りに行った際、転倒し胸部を強打する。痛みが強く、動けないでいるところを家人に発見され、救急搬送される。

初診時所見：多発肋骨骨折、両側血胸、脾損傷による出血性ショック(血圧64/44 mmHg)で、胸腔ドレナージ、輸液・輸血療法、インターベンショナルラジオロジーによる止血にて循環動態の安定化を図る。

既往歴：サルコイドーシス(プレドニゾロン 17.5mg処方)、慢性腎臓病、腹部大動脈瘤、大動脈弁狭窄。

ICU管理となるが、循環動態が安定せず、12月16日心タンポナーデ合併、ドレナージ等の処置を行うも、大動脈弁狭窄による循環異常の管理が困難となり、12月19日、死亡した。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称					
	I	(ア) 直接死因	心タンポナーデ	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	3日	
		(イ) (ア)の原因	左血胸		9日	
		(ウ) (イ)の原因	左多発肋骨骨折		9日	
		(エ) (ウ)の原因				
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	大動脈弁狭窄症	◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3か月、5時間20分)	約2年	
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和		
解剖	①無 2有	主要所見				
(15)	死因の種類		<p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他</p> <p>その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 </p> <p>12不詳の死</p>			
(16)	外因死の追加事項		<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>			
	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	市区町村	
	傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()				

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	心タンポナーデ	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	3日
		(イ) (ア)の原因	左血胸		9日
		(ウ) (イ)の原因	左多発肋骨骨折		9日
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	大動脈弁狭窄症 脾損傷	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約2年 9日
手術	<input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日	
解剖	<input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 <input checked="" type="radio"/> 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>		<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成 昭和 X 年 12 月 11 日 <input checked="" type="radio"/> 午前 午後 6 時 10 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p> <p>XX <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>都道 区 町村</p>	
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p><input checked="" type="radio"/> 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>		<p>手段及び状況</p> <p>新聞を取りに行った際に転倒し、動けないでいるところを家人に発見されたという。</p>		

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別		妊娠週数
		グラム	1 単胎	2 多胎 (子中第 子)	満 週
		妊娠・分娩時における母体の病態又は異状	母の生年月日		前回までの妊娠の結果
		1 無 2 有	3 不詳	平成 年 月 日 昭和	出生児 人胎 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)
(18)	その他特に付言すべきことから 外傷後の全身管理で大動脈弁狭窄症の存在により循環管理に難渋し、死亡したもの。				

← 女
付
定
て
上
て

【解説】

多発肋骨骨折より出血性ショックとなり、集中治療管理を行うも既往歴の複合的要素、特に大動脈弁狭窄症の存在により循環管理に難渋し、死亡したものと解釈されます。

I 欄には「損傷の性質」をルールどおり記載していますが、その原因は外因であるため、「死因の種類」を疾病とすると矛盾が生じます。

転倒する原因に既往歴が関与しているわけではないので外因の「3転倒・転倒」を選択するのが適切です。

循環管理に難渋した要因として、脾損傷も考えられる場合は、II 欄にも併せて記載することもあります。

【Q10】

40歳 女性。 X年9月20日、路上で倒れている所を発見され、救急要請された。救急隊到着時心肺停止状態であり、心肺蘇生をしつつ、病院搬送となった。

初診時所見：二次救命処置で心拍再開となり、循環が安定する。搬送後の頭部CT検査にてくも膜下出血を認め、意識障害・心停止の原因と判断された。

ICU管理となるも、9月24日 12:12に脳死とされうる状態となり、家人より臓器提供の申し出があった。

9月25日 18:33 第1回脳死判定により脳死と判断された。

9月26日 9:12 第2回脳死判定により脳死と判断された。

9月27日 5:33-8:34 臓器摘出が行われた。

【適切でない記載】

死亡したとき 平成X年9月25日 午後6時33分

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称	(ア) 直接死因 心肺停止	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	5日
		I	(イ) (ア) の原因 くも膜下出血		5日
		(ウ) (イ) の原因			
		(エ) (ウ) の原因			
II	直接には死因に關涉しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
手術	① 無 2 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	① 無 2 有	主要所見			
(15)	死因の種類	③ 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死			
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村	
		傷害が発生したところの種別 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()			
		手段及び状況			

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数 満 週	← 女 科 定 て た て
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状 1 無 2 有	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)		
(18)	その他特に付言すべきことから 路上にて心肺停止状態で発見される。蘇生後、脳死状態となり、臓器提供がなされた。				

【適切な記載】

死亡したとき 平成X年9月26日 午前9時12分

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称		発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	6日	
		(ア) 直接死因	くも膜下出血			
		(イ) (ア) の原因				
		(ウ) (イ) の原因				
(15)	死因の種類 ③ 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死	手術	① 無 2 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
		解剖	① 無 2 有	主要所見		
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	
		傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()	市 区 町村	都 府 県	
		手段及び状況				

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別		妊娠週数
		グラム	1 単胎	2 多胎 (子中第 子)	満 週
		妊娠・分娩時における母体の病態又は異状	母の生年月日		前回までの妊娠の結果
		1 無 2 有	3 不詳	平成 年 月 日 昭和	出生児 人胎 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)
(18)	その他特に付言すべきことから 路上にて心肺停止状態で発見される。蘇生後、脳死状態となり、臓器提供がなされた。				

女
付
定
て
上
て

【解説】

くも膜下出血により心肺停止、心肺蘇生に成功するも4日後に「脳死とされうる状態」となり、臓器提供に至った症例です。

「臓器の移植に関する法律」の規定に基づき脳死判定を行った場合、死亡した時刻は第2回目の脳死判定終了時刻を記入するのが適切です。

【Q11】

80歳 男性 X年11月2日、ヘルパーに浴室内で湯に漬かった状態(顔面は漬かっていない)で発見され、救急搬送された。湯温は42度の設定になっていた。

既往歴:脳梗塞による軽度不全麻痺、認知症はあるが、ADLは自立していたとのこと。

初診時所見:意識レベルJCS300、ショック、高体温(39.6℃)による播種性血管内凝固症候群・多臓器不全、両前腕背面、背腰部、両大腿後面にⅡ度熱傷(Ⅱs47%)があり、気管挿管による呼吸管理、輸液療法による循環管理が行われた。

意識レベル低下の原因検索(CT検査)で、新しい脳梗塞を認めた。

集中治療管理を行ったが、消化管出血を合併するなど出血傾向が強くなり、同日死亡した。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	播種性血管内凝固症候群	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1日
		(イ) (ア)の原因	過高熱		約1日
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	脳梗塞、全身熱傷	◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例：1年3か月、5時間20分)	約1日
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	死因の種類	<p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 ⑧その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 不詳 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 区 町村
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種別	①居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()	XX ⑩ 部	
<p>手段及び状況</p> <p>ヘルパーに浴室内で湯に漬かった状態(顔面は漬かっていない)で発見され、過高熱に伴う播種性血管内凝固症候群にて死亡したものの、脳梗塞が契機になった可能性があるが、詳細は不明。</p>					

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名稱		<p>約1日</p> <p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3か月、5時間20分)</p>	<p>約1日</p>	
	I	(ア) 直接死因			脳梗塞
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
	II	(エ) (ウ)の原因	<p>直接には死因に関係しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p> <p>過高熱、播種性血管内凝固症候群、熱傷</p>		
	手術	<p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>				
	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>	
	<p>手段及び状況</p>				

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	播種性血管内凝固症候群	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間	約1日
		(イ) (ア) の原因	脳梗塞		約1日
		(ウ) (イ) の原因			
		(エ) (ウ) の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	全身熱傷	◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約1日
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日		平成 年 月 日 昭和
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()	市 区	都 町村
	手段及び状況				

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数 満 週	← 女 付 定 て た て
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状 1 無 2 有	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)		
(18)	その他特に付言すべきことから 浴室内で湯につかった状態(顔面はつかっていない)で、ヘルパーに発見された。入浴中に脳梗塞が生じたものと考えられる。				

【解説】

浴槽内湯温の高熱暴露により過高熱、それに合併するDICで死亡したと判断し、外因死__不慮の事故 8その他にしたものと判断します。

しかし、意識障害の原因として新しい脳梗塞を診断し、それに起因した一連の病態と判断しているのであれば、I 欄に脳梗塞を記載し、死因の種類を1病死とするのが適切と思われます。死亡の原因欄には損傷名等の記載があり、外因死の追加事項にも可能な限り具体的な記載が望ましいと思われます。

【Q12】

64歳 男性。 X年5月5日、統合失調症にて診療所付属施設に入所していた。午後3時20分頃、柏餅を食べている際に窒息し、心肺停止となった。居あわせた職員により、咽頭内の異物除去、心肺蘇生がなされ、救急要請された。救急隊により心肺蘇生術が継続され、救急入院となった。

既往歴：30歳より統合失調症。

初診時所見：二次救命処置により心拍再開し、ICU管理となる。集中治療管理を行ったが、5月15日、死亡した。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>異物誤嚥による窒息</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	10日	
	I	(イ) (ア)の原因			統合失調症	約30年
		(ウ) (イ)の原因				
		(エ) (ウ)の原因				
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日	
解剖	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	主要所見				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 <input checked="" type="radio"/> 窒息 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害</p> <p>その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p> <p>傷害が発生したところの種別 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>			<p>傷害が発生したところ</p> <p>都道府県</p> <p>市区町村</p>	
	手段及び状況					

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	咽頭異物による窒息	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	10日
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		統合失調症	約30年
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 </p> <p>6 窒息 7 中毒 8 その他</p> <p>その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 5 月 5 日 午前 午後 3 時 20 分頃	傷害が発生したところ	都道府区町村
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 ④ その他 (診療所附属施設)	XX 部	町村
	手段及び状況				
	柏餅を誤嚥し、窒息したもの。				

【適切な記載2】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>蘇生後脳症(または低酸素脳症)</p> <p>約10日</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>約10日</p>	<p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3か月、5時間20分)</p> <p>約10日</p>		
	I	(イ) (ア)の原因				窒息	約10日
		(ウ) (イ)の原因				咽頭異物	約10日
	(エ) (ウ)の原因						
	II	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p> <p>統合失調症</p> <p>約30年</p>					
	手術	<p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日	昭和		
解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>						
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 </p> <p>6 窒息 7 中毒 8 その他</p> <p>その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>						
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>		<p>平成 昭和 X 年 5 月 5 日 午前 午後 3 時 20 分 頃</p>	<p>傷害が発生したところ</p> <p>○△</p> <p>XX 市 区 町村</p>	<p>都道府県</p> <p>市 区 町村</p>		
<p>手段及び状況</p> <p>柏餅を誤嚥し、窒息したものの。</p>							

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数 満 週	← 女 付 定 て 上 て
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状 1 無 2 有	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和	3 不詳	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)	
(18)	その他特に付言すべきことから 心肺停止状態で病院に搬送され、一旦心拍が再開し、治療を受けていたが死亡した。				

【解説】

異物誤嚥による窒息死で、外因死の症例です。

長年煩ってきた「統合失調症」をⅠ欄(イ)行に記入するのは適切ではありません。これでは、原死選択で「統合失調症」、その種類が疾病となってしまいます。

Ⅱ欄に記載するのが適切です。

また、死亡の原因として「6窒息」を選択すれば、外因死の追加事項が必要です。

【Q13】

83歳 女性 X年9月3日、腹痛、嘔吐、ショック状態で緊急入院となる。既往歴として高血圧症、糖尿病、慢性腎臓病。

初診時所見：腹膜炎のため、緊急開腹術施行、非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)の診断。循環動態安定せずICU管理となる。集中治療管理を行うも以下のような種々の合併症を併発し、死亡する。

9月3日－9日：腹部術創の管理(OAM)中に緑膿菌感染症

9月4日以降腎不全に対し、持続血液透析濾過開始。

9月17日：急性呼吸促迫症候群が改善せず、気管切開術

9月24日：ICU退出するが、術創の感染対策、経腸栄養管理、意識レベルⅡ群にて気道管理、透析療法等を継続。

9月30日：突然の心肺停止、蘇生に反応せず死亡。

死亡後CT検査所見：冠動脈石灰化以外に突然死を説明できる所見なし。

【適切でない記載】

14	死亡の原因	施設の名 称		発病（発症） 又は受傷から死亡までの期間	約2時間	
		I	(ア) 直接死因			急性冠動脈症候群
			(イ) (ア) の原因			
			(ウ) (イ) の原因			
II	(エ) (ウ) の原因					
15	死因の種類	直接には死因に關涉しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		約1ヶ月	約1ヶ月	
		細菌性腹膜炎				
		手術	1 無 <input checked="" type="radio"/> ①			部位及び主要所見 非閉塞性腸間膜虚血症を認め、 オープンアブドメン管理とする
16	外因死の追加事項	解剖	<input checked="" type="radio"/> ① 無 <input type="radio"/> 2 有	主要所見		
		死因の種類	<input checked="" type="radio"/> ③ 死及び自然死	不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 外因死 { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死		
		傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	
		傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	市 区 町 村		
		手段及び状況				

【適切な記載】

死亡の原因	施設の名称		発病（発症）又は受傷から死亡までの期間	約24日	
	I	(ア) 直接死因			多臓器不全
		(イ) (ア) の原因			細菌性腹膜炎
		(ウ) (イ) の原因			虚血性腸炎
II	(エ) (ウ) の原因				
手術	部位及び主要所見		手術年月日	○X年9月3日 昭和	
	1 無	○ 非閉塞性腸間膜虚血症を認め、オープンアブドメン管理とする			
解剖	主要所見				
	○ 1 無	2 有			
死因の種類	3 死及び自然死				
	外因死	不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因			
外因死の追加事項	12 不詳の死				
	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	
	傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	市 区 郡 町村		
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください		手段及び状況			

【解説】

非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)の術後、感染対策管理に難渋し、多臓器不全を合併。突然の心停止が、死後CTでも明確にできない症例です。

冠動脈石灰化を根拠に「急性冠動脈症候群」としていますが、不整脈も否定できません。これのみでは原死選択が循環器系疾患での死亡となります。

直接の死因は不詳でも、心停止を感染症、敗血症、および多臓器不全に至る一連の流れとするのが合理的です。したがって、原死選択にその原因である虚血性腸炎または非閉塞性腸間膜虚血症が選択できるようにするのが適切です。

【Q14】

44歳 男性。X年8月1日、午後3時頃、工事作業の現場にて3階部分より転落し、頭部を強打する。

初診時所見：呼吸循環安定するも、意識レベルGCSE1V2M2、瞳孔不同を認める。頭部CT検査にて脳挫傷、硬膜下血腫の診断。

開頭血腫除去術および外減圧後、ICUにて脳圧亢進症状に対する管理を行う。

受傷後10日を経ても意識レベルの改善悪く、疼痛刺激に除皮質硬直を示した。経腸栄養、気管切開で療養病床管理となった。

受傷後30日目頃より、誤嚥性肺炎を合併し、44日目に死亡した。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称					
	I	(ア) 直接死因	誤嚥性肺炎		発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください （例：1年3か月、5時間20分）	約14日
		(イ) (ア) の原因				
		(ウ) (イ) の原因				
		(エ) (ウ) の原因				
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		脳挫傷		44日
手術	1 無	① 脳挫傷および硬膜下血腫		手術年月日	○X年8月1日	
解剖	① 無	2 有		主要所見		
(15)	① 病死及び自然死 外因死		不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村		
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種別 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	手段及び状況			

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	誤嚥性肺炎	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間	約14日
		(イ) (ア) の原因	脳挫傷および硬膜下血腫		44日
		(ウ) (イ) の原因			
		(エ) (ウ) の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	1 無	① 脳挫傷および硬膜下血腫	手術年月日	○ X年8月1日	
解剖	① 無	2 有	主要所見		
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 ③ 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 }</p> <p>その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 }</p> <p>12 不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X年8月1日 午前(午後) 3時頃	傷害が発生したところ	○△ XX ④ 区 町村
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1 住居 ② 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	手段及び状況	工事現場の3階部分から転落したという。

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数 満 週	← 女 付 定 て た て
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状 1 無 2 有	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)		
(18)	その他特に付言すべきことから 重度頭部外傷後の合併症として肺炎で死亡したもの				

【解説】

ヘルニア徴候を示す重度頭部外傷後に意識レベルの改善が悪く(植物状態)、誤嚥性肺炎で死亡した症例です。

I 欄に「誤嚥性肺炎」のみを記入すると原死因が疾病となりますが、本症例は頭部外傷後に生じた誤嚥性肺炎で因果関係があると思われます。I 欄に「脳挫傷、硬膜下血腫」を記載し、外因の「3転倒・転落」を選択するのが適切です。

【Q15】

生後3ヶ月男児。朝、ミルク哺乳後に入眠したため、大人用ベッドにあおむけに寝かせた。3時間後に母親が様子を見に行くと、あおむけで顔色が悪く呼吸をしていないことに気付いた。すぐに119番に連絡し、救急隊員の指導で救急車到着まで人工呼吸を行った。病院に搬送後、心肺蘇生を1時間行ったが、反応が見られず、死亡確認となった。

在胎38週、体重2500g、普通分娩にて出生。

妊娠分娩経過に異常なく、出生後も先天性疾患などは指摘されていない。

発達発育は順調で、必要な予防接種等も実施されていた。死亡前に感冒様症状などは認めなかった。家族歴には特記すべきことなし。

外表に出血斑、外傷、皮膚損傷はなく、眼底出血は認めなかった。

死亡状況からは事件、事故ではないと判断された。

家族から剖検の了解が得られなかったため、病理解剖は実施しなかった。

死後画像検査では死亡原因となり得るような所見は認めなかった。

死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名稱		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>不詳</p>	
	I	(ア) 直接死因			乳幼児突然死症候群(の疑い)
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
II	(エ) (ウ)の原因				
手術	<p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日 昭和		
解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>	
	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>手段及び状況</p>			

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>原因不明の突然死</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>不詳</p>	
	I	(ア) 直接死因				
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
II	(エ) (ウ)の原因					
手術	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p> <p>部位及び主要所見</p> <p>①無 2有</p>	手術年月日	平成 年 月 日 昭和			
解剖	<p>主要所見</p> <p>①無 2有</p>					
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>②不詳の死</p>					
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>		
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>	<p>手段及び状況</p>				

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数 満 週	← 女 付 定 て 上 て
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状 1 無 2 有 [] 3 不詳	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)		
(18)	その他特に付言すべきことから 自宅で様子がおかしいことに気づき、病院に搬送され治療を受けるも、蘇生処置に反応なく死亡が確認された。				

【解説】

乳幼児突然死症候群(SIDS)は「それまでの健康状態および既往歴からその死亡が予測できず、しかも死亡状況調査および解剖検査によってもその原因が同定されない、原則として1歳未満の児に突然の死をもたらした症候群」と定義されており、診断は剖検および死亡状況調査に基づいて行う必要があります。法医解剖(司法、行政、承諾、新法)がなされなかった場合は、家族の同意を得て病理解剖により診断することとなります。

何らかの理由で解剖がなされない場合および死亡状況調査が実施されない場合は、SIDSの診断は不可能となります。SIDS以外に乳児に突然の死をもたらす疾患および窒息や虐待などの外因死との鑑別も必要ですので、解剖がなされない場合には、死亡状況からSIDSが強く疑われる場合でも、死亡診断書(死体検案書)の死因は原因不明、死因分類は「12.不詳」が適切です。

【Q16】

72歳男性、生来健康、特記すべき既往症なし。

血尿が出現し、病院を受診したところ、膀胱がんの診断を受けた。手術のため全身状態の精査を行ったところ、左上葉に腫瘍が見つかり、肺がんと診断された。

肺がん、膀胱がんそれぞれ手術（平成X年6月10日；左肺上葉切除術、平成X年7月25日；経尿道的腫瘍切除術）が行われ、病理組織検査の結果、肺がんは扁平上皮癌、膀胱がんは移行上皮癌であった。

手術後も経過観察を行っていたが、1年半後に肺に再発巣がみられ、再発巣の増大に伴い身体が衰弱し、初診の約2年後に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなくてください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>不詳</p> <p>不詳</p>
	(ア)直接死因	肺癌		
	(イ)(ア)の原因	膀胱癌		
	(ウ)(イ)の原因			
	(エ)(ウ)の原因			
<p>手 術</p> <p>1無 ②有</p>	<p>部位及び主要所見</p> <p>左肺上葉切除術 経尿道的腫瘍切除術</p>		<p>手術年月日</p> <p>平成 23 6 10 昭和 23 7 25</p>	
<p>解 剖</p> <p>①無 2有</p>	<p>主要所見</p>			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 </p> <p>12不詳の死</p>			
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()</p>	<p>手段及び状況</p>		

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなくてください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	原発性左肺上葉扁平上皮癌	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約2年
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	膀胱移行上皮癌	◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例：1年3か月、5時間20分)	約2年	
手術	1無 ②有	部位及び主要所見 左肺上葉切除術 経尿道的腫瘍切除術	手術年月日	平成 23 6 10 昭和 23 7 25	
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 </p> <p>12不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	市 区 都 町村	
	手段及び状況				

【解説】

本文から、いわゆる重複がんの事例で、死因は肺の扁平上皮癌の切除後の再発と考えられます。

死因は、「左肺上葉扁平上皮癌」として、術式等も記載してください（伝聞情報をふまえても可）。

また、精度の高い正確なデータの収集のためにも分かる範囲で部位・組織型なども併せて記載をお願いします。

【Q17】

64歳男性。平成X年12月6日午前1時頃、〇〇県△△市の自宅で火災が発生した。家屋の2部屋が焼け、鎮火後、火元の隣の部屋から発見された。

発見場所の部屋はそれほど焼けていない。遺体に大きな損傷はなく、熱による損傷(火傷)もみられなかった。死斑は鮮紅色、血液を採取し、一酸化炭素ヘモグロビン飽和度を測定したところ、83.2%であった(致死濃度:60%以上)。法医解剖では諸臓器が鮮紅色を呈し、気管内に煤の付着がみられた。

死体の所見、身体所見等から、一酸化炭素中毒による死亡と判断された。また、その後の捜査で、ストーブの火の不始末が火災の原因と判断された。

この場合、死体検案書の記載は、どのようにしたらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>一酸化炭素中毒</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>短時間</p>	
	I	(ア)直接死因				
		(イ)(ア)の原因				
		(ウ)(イ)の原因				
	(エ)(ウ)の原因					
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	1無 ②有	主要所見 諸臓器は鮮紅色、気管内に煤の付着。 血液から高濃度の一酸化炭素ヘモグロビンを検出。			
(15)	死因の種類	<p>1病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 ⑦中毒 8その他</p> <p>その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 </p> <p>12不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 12月 6 日 ⑧午前 午後 1時 頃分	傷害が発生したところ	〇〇 都道府県 △△ 区 市 町 村	
		傷害が発生したところの種類	①住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()			
		<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況 自宅の火災にまきこまれたもの。</p>				

【適切な記載】

<p>(14) 死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなくてください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>一酸化炭素中毒</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>短時間</p>	
	I	(ア) 直接死因				
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
	(エ) (ウ)の原因					
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	1無 ②有	<p>主要所見</p> <p>諸臓器は鮮紅色、気管内に煤の付着。 血液から高濃度の一酸化炭素ヘモグロビンを検出。</p>			
(15)	死因の種類	<p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 ⑤ 火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 12 月 6 日 ① 午前 午後 1 時 頃 分		傷害が発生したところ	△△ 都道府県 市町村
		傷害が発生したところの種類	① 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()			
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況				
		自宅の火災にまきこまれたもの。				

【解説】

本文から、死因は家屋火災による一酸化炭素中毒と考えられます。直接死因は一酸化炭素中毒ですが、死因の種類は火災に起因するものなので、「5.煙・火災及び火焰による傷害」となります。

火災であることは外因死の追加事項に記入いただき、その起こった場所や状況についても、分かる範囲で状況等を詳細に記載いただくようお願いします。

【Q18】

42歳男性。平成X年9月16日、午後2時頃、〇〇県△△市のゴルフ場でプレー中に雷雨となり、雨宿りをしていたところ、落雷があり、直後に倒れているのを発見された。

救急隊の到着時、心肺停止状態で、病院に搬送されたが死亡が確認された。死後CT検査も施行されたが、特に有意な所見は得られなかった。死体検案の際に、皮膚にいわゆる「電紋」が確認された。

死体の所見、身体所見等から、落雷による死亡と判断された。

この場合、死体検案書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>短時間</p>	
	I	(ア) 直接死因			落雷
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
	II	(エ) (ウ)の原因			
	手術	<p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>昭和 年 月 日</p>		
	解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>			
(15)	死因の種類	<p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 ⑧ その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>			
(16)	外因死の追加事項	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>	<p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>傷害が発生したところ</p> <p>都道府県</p> <p>市区町村</p>	
		<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>			

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>雷撃症</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>短時間</p>	
	I	(ア)直接死因				
		(イ)(ア)の原因				
		(ウ)(イ)の原因				
	(エ)(ウ)の原因					
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	<input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	<input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有	主要所見			
(15)	死因の種類	<p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 }</p> <p>その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 6 月 10 日 午前・午後 2 時 頃 分	傷害が発生したところ	○○ 都道府県 △△ 区 市町村	
		傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 ① その他(ゴルフ場)			
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況 ゴルフ場でプレー中、落雷に遭ったという。				

【解説】

本文から、死因は落雷による「雷撃症」と考えられました。死因欄の記載は、状況としては「落雷」ですが、傷病名での記載になりますので、「雷撃症」、死因の種類は「8.その他の外因死」となります。

また、外因死の追加事項につきましても、分かる範囲で状況等について詳細な記載が必要です。

【Q18】

42歳男性。平成X年9月16日、午後2時頃、〇〇県△△市のゴルフ場でプレー中に雷雨となり、雨宿りをしていたところ、落雷があり、直後に倒れているのを発見された。

救急隊の到着時、心肺停止状態で、病院に搬送されたが死亡が確認された。死後画像検査(CT)も施行されたが、特に有意な所見は得られなかった。死体検案の際に、皮膚にいわゆる「電紋」が確認された。

死体の所見、身体所見等から、落雷による死亡と判断された。

この場合、死体検案書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>落雷</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>短時間</p>	
	I	(ア) 直接死因				
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
II	(エ) (ウ)の原因					
手術	<p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日	昭和 年 月 日		
解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>					
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 ⑧ その他 }</p> <p>その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	都道府県	市区町村	
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>				
		手段及び状況				

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>雷撃症</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>短時間</p>	
	I	(ア)直接死因				
		(イ)(ア)の原因				
		(ウ)(イ)の原因				
	(エ)(ウ)の原因					
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	主要所見			
(15)	死因の種類	<p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 }</p> <p>その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 }</p> <p>12 不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 6 月 10 日 午前・午後 2 時 頃 分	傷害が発生したところ	○○ 都道府県 △△ 区 市町村	
		傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 ① その他(ゴルフ場)			
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況 ゴルフ場でプレー中、落雷に遭ったという。				

【解説】

本文から、死因は落雷による「雷撃症」と考えられました。死因欄の記載は、状況としては「落雷」ですが、傷病名での記載になりますので、「雷撃症」、死因の種類は「8.その他の外因死」となります。

また、外因死の追加事項につきましても、分かる範囲で状況等について詳細な記載が必要です。

【Q20】

47歳女性。平成X年3月16日、午後2時頃、〇〇県△△市の自宅室内で死亡しているのを発見された。数年前からうつ病にて、通院・投薬治療を受けている。

室内のゴミ箱から大量の三環系抗うつ薬の空き包装が発見された。死体検案では、明らかな損傷等はなく、死後画像検査(CT)にて、胃内に高吸収を示す沈渣が多量みられた。尿の薬物簡易検査で三環系抗うつ薬が陽性であった。

死体の所見、身体所見等から、薬物の過剰摂取による死亡と判断された。死体現象から死亡時刻は3月16日、午前2時頃、薬物服用はその少し前と考えられた。警察の捜査で、意図して摂取したか、誤って大量に服薬したか判然としない。

この場合、死体検案書の「死亡の原因」等の記載をどのようにしたらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	短時間	
	I	(ア) 直接死因			薬物中毒(推定)
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
	II	(エ) (ウ)の原因			
	手術	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <p>主要所見</p>			
(15)	死因の種類	<p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 }</p> <p>その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 }</p> <p>12 不詳の死</p>			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき <input checked="" type="checkbox"/> 昭和 X 年 3 月 16 日 <input checked="" type="checkbox"/> 午後 2 時 頃 分	傷害が発生したところ <p>○ ○ 都道 △ △ 区 ● 市 町村</p>		
		傷害が発生したところの種類 <input checked="" type="checkbox"/> 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()			
		手段及び状況 自宅室内で死亡していた。			

【適切な記載】

<p>(14) 死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	短時間	
	I	(ア) 直接死因			三環系抗うつ薬中毒(推定)
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
	II	(エ) (ウ)の原因			
	III	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
	手術	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
	解剖	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 2有	主要所見		
(15)	死因の種類	<p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 }</p> <p>その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 <input checked="" type="checkbox"/> その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 3 月 16 日 午後 2 時 頃 分	傷害が発生したところ	○○ 都道府県 △△ 区 市町村
		傷害が発生したところの種類	<input checked="" type="checkbox"/> 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()		
		手段及び状況 自宅室内で死亡していた。三環系抗うつ薬を多量に摂取したと思われる。			

【解説】

本文から、死因は三環系抗うつ薬による「中毒死」と推定されます。死因欄の記載は、薬品名が分かるようなら、「三環系抗うつ薬中毒(推定)」、あるいは、外因死の追加事項に薬品名、化学物質名を分かる範囲で記載します。自殺か不慮の事故かが不明な場合、死因の種類は「11.その他及び不詳の外因死」を選択します。

外因死の追加事項は、分かる範囲で状況等を詳細に記載してください。

【Q21】

92歳男性、生来健康。既往歴としては、73歳のときに胃がんを手術。

数ヶ月前から体力が低下し、あまり外出しなくなった。2週間ほど前から起き上がれなくなり、同居家族が世話をしていたが、食事摂取も低下してきたため、病院を受診・入院した。

顕著な症状はなく、入院後の検査では特に異常も発見されなかったが、徐々に衰弱し、一昨日からは意識の状態が低下、昨日夜からは末梢循環不良のため腋窩温が低下していた。本今朝、死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>低体温</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>不詳</p>	
	I	(ア) 直接死因				
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
II	(エ) (ウ)の原因					
手術	<p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日	昭和		
解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>					
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>		
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>			

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>老衰</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>約2週間 (不詳も可)</p>	
	I	(ア) 直接死因				
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
II	(エ) (ウ)の原因					
手術	<p>① 無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日	昭和		
解剖	<p>① 無 2有</p> <p>主要所見</p>					
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>		
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>			

【解説】

本文からは、死因は老衰であると推測されます。

死亡直前には顕著な低体温がみられたとのことですが、これは終末状態でみられたものと思われ、環境要因による低体温（いわゆる「凍死」）とは異なります。ですから、「死因の種類」も「1.病死および自然死」を選択されていると思います。

終末状態の「低体温」を死因に選択することは好ましくありませんので、高齢者で他に記載すべき原因がない場合は、「老衰」の記載が適切です。

別添 4

平成28年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発（28020201）

研究分担者 池松 和哉 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

研究要旨

本研究では、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載するための教育コンテンツの開発と普及・啓発を目的とする。特に、標準的な記載例と解説を加えた e-ラーニングのシステム構築を行う。

本年度は、実際の事例をベースとした模擬事例を設定し、模範記載例（標準的記載例）を選択する問題形式とその解説を作成した。医師の自学自習に活用できるよう、e-ラーニングのシステムにした。

A．研究目的

本研究は、死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例を収載した教育コンテンツを開発し、適切な原死因の記載と、その普及・啓発を目的とする。

B．研究方法

研究開発の内容は大きく、事例と標準的記載例、その解説を中心とするコンテンツの作成、作成したコンテンツを用いた教育効果の評価、からなる。研究初年度の本年度は事例と標準的記載例、その解説の作成を中心に行う。

専門領域（法医学）における比較的典型的な事例を収集し、死亡診断書・死体検案書を作成する上で、問題となる点や課題を抽出し、ICD-10の原死因選択ルールに基づいた、各事例について模範記載例（適切な記載例）とその解説も作成した。

（倫理面への配慮）

事例集の作成に際しては、個人情報や個人が特定できるような内容を含まない。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、因果関係の記載が困難な例、あるいは記載方法の判断に迷うと考えられる外因死例を中心にした20例の模擬事例を設定し、それぞれについて適切な記載例を選択するe-ラーニングのシ

ステム構築を行った。

D．考察

死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会経済的に広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。その死因統計の基礎となるのが死亡診断書・死体検案書の記載内容であり、死因欄に記載された傷病から死因選択ルールにより原死因を選び、死因が分類される。

そのため、医師は死亡診断書・死体検案書の作成にあたり、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを熟知しておく必要があるが、現状の重要性についての意識・認識は必ずしも十分ではない。

本研究では事例集を中心とした教育コンテンツを作成した。この評価については次年度に行う予定であるが、これを活用することで適切な記載に関する知識を普及させるとともに、適切な原死因選択を行うことの重要性も啓発していく。これらの活動を通じて、原死因選択方法についての周知と記入に関する意識の向上が、直接的・間接的に死因の精度向上につながり、ひいては死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進や福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

E．結論

死亡診断書・死体検案書作成にあたり、記載が困難な例や記載方法に迷う例を、実際の

事例に基づき課題から適切な模範記載例（標準的記載例）を選択する学習システムを作成した。これらの成果は、国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1．論文発表

該当なし。

2．学会発表

池松和哉．死亡診断書・死体検案書の作成に関する留意点．長崎県医師会・警察活動に協力する医師の部会第1回研修会，2016年11月5日，長崎市，長崎県医師会館

平成28年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発（28020201）

研究分担者 横田 順一郎 独立行政法人 堺市立病院機構 副理事長

研究要旨

本研究では、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載するため、事例についての標準的な記載例を作成し、教育コンテンツの開発と普及・啓発を目的とする。

本年度は、実際の事例を基礎とした模擬事例集を策定し、原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）と、不適切な記載例およびその解説を作成した。それらの内容を、医師の自学自習に活用できるよう、e-ラーニングのシステムとして作成した。

次年度は、本年度に作成した事例集を用いて、その教育効果の検証を行う。

A．研究目的

本研究は、死亡診断書・死体検案書の適切な記載についての普及・啓発、特に適切な原死因の選択のための教育コンテンツを開発することを目的とする。

B．研究方法

研究開発は大きく、事例と標準的記載例を中心とするコンテンツの作成、作成したコンテンツを用いた教育効果についての実証試験からなる。教育効果については、現場の医師を対象として評価を行う。研究初年度の本年度は 標準的記載例の作成を主に行った。

特に、専門とする救急医学領域における過去の臨床経験や、学会や検討会での討議事項、カンファレンスなどでの情報も含め、死亡診断書・死体検案書の記載の際に悩むことが多いと考えられる典型的な事例を収集し、書類作成上の問題点や、死亡診断書・死体検案書の記載が困難な点を抽出した。それらの課題を基に、学習用の事例を作成し、ICD-10の原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）を作成し、あわせて不適切な記載例や記載上の注意点も作成した。

（倫理面への配慮）

事例集の作成において、個人情報や個人が特定できるような内容は含まない。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、因果関係の記載が困難な例や記載方法の判断に迷

うと考えられる事例について、合計20例の事例を設定した。特に、救急事例を中心に作成した。それぞれについて不適切な記載例と模範記載例（標準的記載例）からなる選択肢を作成し、その解説も加え、e-ラーニングのシステムを構築した。

D．考察

死亡診断書、死体検案書の記載内容は、死亡の医学的・法的な証明のみならず、特に原死因に関する事項は、わが国の死因統計を作成する際の基礎資料となる。そのため、死因欄に記載された傷病から死因選択ルールにより原死因を選び、死因を分類することは基本的な事項であるが、重要である。

死因統計は、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつであり、わが国の保健衛生行政や社会経済的にも広く活用されている。そのため、医師は、個々の死亡診断書・死体検案書の記載内容がどのような形で統計作成に利用されているかを熟知しておく必要があるが、現状の重要性についての意識・認識は必ずしも十分ではない。そのため、必ずしも適切でない記載や、死因の選択がみられるといわれており、これら記載の適切化は、死因統計の精度向上と、それを介した国民の健康増進や福祉の向上につながる。

今年度の本研究ではまず事例集を中心とした教育コンテンツを作成した。この評価については次年度に行う予定であるが、これを活用することで適切な記載に関する知識を普及

させるとともに、適切な原死因選択を行うことの重要性も啓発していく。これらの活動を通じて、原死因選択方法についての周知と記入に関する意識の向上が、直接的・間接的に死因の精度向上につながるものと考えられる。

E．結論

実際の事例に基づく課題を設定し、死亡診断書・死体検案書作成の際の、因果関係の記載が困難な例、あるいは記載方法の判断に迷うと考えられる例についての不適切な記載例と模範記載例（標準的記載例）及びその解説を作成した。本研究の評価は、次年度に実証試験を行うが、作成した教育コンテンツの活用を介して、国民の健康増進・福祉の向上に寄与することが期待される。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1. 論文発表

横田順一郎：特殊な受傷機転．JPTECガイドブック．へるす出版、東京；178-183，2016

横田順一郎（編集委員長）：外傷初期診療ガイドラインJATEC改訂第5版、へるす出版、東京、2016

2. 学会発表

該当なし。

平成28年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発（28020201）

研究分担者 加藤 稲子 三重大学大学院周産期発達予防学講座 教授

研究要旨

本研究では、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載することを普及・啓発するための、教育コンテンツの開発を目的とする。

本年度は、模擬事例の作成と、その事例での原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）、不適切な記載例の自習に活用できるよう、解説を含めたe-ラーニングのシステム構築を行った。

次年度は、本年度に作成したe-ラーニングの教育効果の検証を行い、さらにコンテンツの拡充をはかる。

A．研究目的

本研究は、死亡診断書・死体検案書の死因について、模擬事例での標準的な記載例を作成し、適切な原死因選択に関する事項の普及・啓発のための教育コンテンツの開発を目的とする。

B．研究方法

研究開発は、模擬事例とその標準的記載例及び解説を中心とするコンテンツの作成、作成したコンテンツを用いた教育効果の評価からなる。研究初年度は模擬事例とその標準的記載例及び解説中心とするコンテンツの作成を中心に行う。

死亡診断書・死体検案書を作成する際に、記載が困難な点や、記載内容に関して問題となる点などの課題について抽出し、模擬事例として作成する。模擬事例の作成にあたっては、これまでの診療経験、学会、カンファレンス等で伝聞した情報も含め、小児領域における典型的な事例を収集し、学習用の事例を作成した。その事例について、ICD-10の原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）迷いやすい不適切な記載例およびその解説についても併せて作成した。また記載例については、研究班員全員で様式の統一を図った。

（倫理面への配慮）

事例集の作成に際しては、個人情報や個人が特定できるような内容は含まない。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、特に記載方法の判断に迷うと考えられる小児医療領域での事例について事例を設定し、各班員の専門領域（外因死、小児医療、高齢者医療、救急医療等）について、合わせて20例の模擬事例を作成した。それぞれについて模範記載例（標準的記載例）、不適切な記載例とその解説を作成し、e-ラーニングのシステムの構築を行った。

D．考察

死亡診断書、死体検案書の記載内容は、単にそのヒトの死亡を医学的・法的に証明することのみならず、わが国の死因統計を作成する際の基礎資料となっている。特にその記載内容のうち、死因欄に記載された傷病から死因選択ルールにより原死因を選び、死因の分類を考慮して診断書等を作成することが重要である。しかしながら、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかについては、現状の意識・認識は必ずしも十分ではない。

死因統計は、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。社会的に保健衛生行政や社会経済的に広く活用されており、その重要性は大きい。そこで、死亡診断書・死体検案書の記載内容がどのような形で統計作成に利用されているかを認識し、適

切な原死因記載の重要性についての学習コンテンツが求められている。

本研究ではまず、模擬事例集を中心とした教育コンテンツを作成した。この評価については次年度に行う予定であるが、模範記載例や概説も加えており、活用することで適切な記載に関する知識や、適切な原死因選択を行うことの重要性も認識できると考える。原死因選択方法についての意識の向上が、直接的・間接的に死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進や福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

E．結論

死亡診断書・死体検案書作成の際に、記載が困難な例、判断に迷う例を中心に、模擬事例に基づく課題を設定し、自学自習のコンテンツを作成した。これらの成果は、国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1. 論文発表

該当なし。

2. 学会発表

該当なし。

平成28年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発（28020201）

研究分担者 鷲見 幸彦 国立長寿医療センター 副院長

研究要旨

本研究では、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載するための教育コンテンツの開発を目的とする。

本年度は、模擬事例を作成し、原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）および不適切な記載例とその解説を併せて作成した。それらを収載したe-ラーニングシステムを試作し、自学自習に活用できるよう構築した。

次年度は、その教育コンテンツの効果についての検証を行うとともに、コンテンツの充実をはかる。

A．研究目的

本研究は、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載するための標準的な記載例を作成し、原死因選択のための適切な記載の普及・啓発のための教育コンテンツの開発が目的である。

B．研究方法

今回のコンテンツ開発の研究内容は大きく、模擬事例、標準的記載例、不適切記載例およびその解説からなるコンテンツの作成、作成したコンテンツの教育効果についての評価、からなる。研究初年度は 模擬事例、標準的記載例、不適切記載例およびその解説からなるコンテンツの作成を中心に行った。

死亡診断書・死体検案書の記載が困難な例を中心に、過去の診療経験、学会や検討会、カンファレンスなどで伝聞した情報も含め、比較的典型的な事例を収集した。記載を行う上での問題点や課題を基に、学習用の模擬事例を作成し、ICD-10の原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）を作成するとともに、不適切な記載例およびその解説も作成した。記載例については、研究班員全員でブラッシュアップを行った。

（倫理面への配慮）

事例集の作成に際しては、個人情報や個人が特定できるような内容は含まないよう配慮した。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書記載の際に、因果関係の記載が困難な例、あるいは記載方法の判断に迷うと考えられる事例にはしばしば遭遇する。専門の神経内科領域の事例を中心に、各領域合わせて20例の事例を設定し、個々の事例について不適切な記載例と模範記載例（標準的記載例）、さらにそれらの解説を作成した。さらに、それらの事例と記載例などをベースにe-ラーニングのシステム構築を行った。

D．考察

死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会経済的に広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。死因統計の基礎となるのが1例1例の死亡診断書・死体検案書の記載内容であり、死因欄に記載された傷病から死因選択ルールにより原死因を選び、死因が分類される。そのため、死亡診断書・死体検案書の作成にあたり、その記載内容は単に死亡を医学的・法律的に証明することのみならず、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを熟知しておく必要があるが、現状の重要性についての意識・認識は必ずしも十分ではない。

本研究ではまず事例集を中心とした教育コンテンツを作成し、医師の自学自習に供しやすいような様式にした。この学習における評

価については次年度に行う予定である。

教育コンテンツの活用により、適切な記載に関する知識を普及、適切な原死因選択を行うことの重要性も理解し、原死因選択方法についての周知と記入に関する意識の向上が期待でき、死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進や福祉の向上に大きく寄与するものと思われる。

E．結論

死亡診断書・死体検案書作成の際の、記載に迷う例などを中心に。実際の事例に基づく課題を設定し、自習できるコンテンツの作成を行った。この成果は、死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与するものと思われる。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1. 論文発表

該当なし。

2. 学会発表

該当なし。

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発（28020201）

研究分担者 横井 英人 香川大学医学部附属病院 教授

研究要旨

本研究では、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載するための、標準的な記載例集を収載した教育コンテンツの開発と普及・啓発を目的とする。

本年度は、模擬事例を設定し、原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）とあわせて不適切な記載例およびその解説を作成し、医師の自学自習に活用できるように、e-ラーニングのシステム構築を行った。

A．研究目的

本研究は、医師が作成する死亡診断書・死体検案書の「原死因」の選択について、適切な記載を行うための教育コンテンツの開発を目的とする。

B．研究方法

研究開発の内容は大きく、事例と標準的記載例（適切な記載）の選択を中心とするコンテンツの作成と、作成したコンテンツを用いた教育効果について、特に現場の医師を対象として評価を行う。研究初年度の本年度は標準的記載例を作成し、とりまとめた。

各分担研究者の専門領域における比較的典型的な事例を収集し、問題となる点や課題、あるいは死亡診断書・死体検案書の記載が困難な点や課題を基に、学習用の事例を作成し、ICD-10の原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）を作成した。それらの課題をとりまとめ、e-ラーニングシステムの構築を行った。

（倫理面への配慮）

事例集の作成に際しては、研究代表者、研究分担者の過去の経験も参考にすが、個人情報や個人が特定できるような内容は含まない。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、因果関係の記載が困難な例、あるいは記載方法の判断に迷うと考えられる各領域（外因死、小児医療、高齢者医療、救急医療等）での事例

について、それぞれについて適切な記載例を選択し、解説の記載のある自己学習可能なe-ラーニングのシステムを構築した。

D．考察

死亡診断書、死体検案書は、単に人間の死亡を医学的・法的に証明することのみが目的ではない。それらの記載内容は、わが国の死因統計の基礎となっており、死因欄に記載された傷病から死因選択ルールにより原死因を選び、死因が分類される。

死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会経済的に広く活用されている基盤データのひとつである。そのため、医師は死亡診断書・死体検案書の作成にあたり、その記載内容がどのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを熟知しておく必要があるが、現状の重要性についての意識・認識は必ずしも十分ではない。

本研究ではまず事例集を中心とした教育コンテンツを作成した。この評価については次年度に行っていくが、これを活用することで適切な記載に関する知識を普及させるとともに、適切な原死因選択を行うことの重要性を啓発する必要がある。これらの活動を通じた、原死因選択方法についての周知と記入に関する意識の向上が、直接的・間接的に死因の精度向上につながるものと考ええる。死因統計の精度が向上することで、国民の健康増進や福祉の向上に大きく寄与することが期待され、e-ラーニングシステム構築はそのひとつのステップになると考える。

E．結論

死亡診断書・死体検案書作成の際に、記載が困難な例を中心に、実際の事例に基づく課題を設定し、適切な記載例を選択するe-ラーニングシステムの構築を行った。これら本研究の成果は、死因統計の精度向上を介して、国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1．論文発表

該当なし。

2．学会発表

谷川原 綾子，辻 真太郎，福田 晋久，西本 尚樹，小笠原 克彦，横井 英人．医療機器不具合用語集のハンドリングツール構築に向けた同義語候補の同定に関する検討．第20回日本医療情報学会春季学術大会，2016年6月4日，島根県松江市

谷川原 綾子，西本 尚樹，辻 真太郎，福田 晋久，谷川 琢海，上杉 正人，小笠原 克彦，横井 英人．医療機器不具合用語集における同義語抽出に向けた異義語除外法の検討．第36回医療情報学連合大会，2016年11月23日，神奈川県横浜市

小野 大樹，横井 英人，中園 美香．医療機器等における不具合等報告の「健康被害・不具合状況」から「回収（改修）」につながる事象推定の試み．第36回医療情報学連合大会，2016年11月24日，神奈川県横浜市

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発（28020201）

研究分担者 宮武 伸行 香川大学医学部 准教授

研究要旨

本研究では、死亡診断書・死体検案書の原死因を適切に記載するための教育コンテンツの開発と普及・啓発を目的とする。

本年度は、模擬事例とその標準的な記載例を作成し、e-ラーニング様式で原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）とあわせてその解説を作成した。医師の自学自習に活用できるよう、e-ラーニングのコンテンツを構築した。

次年度は、本年度に作成したコンテンツの拡充と、その教育効果の検証を行う。

A．研究目的

本研究は、死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例を作成し、原死因の適切な記載の普及・啓発のための教育コンテンツの開発を目的とする。

B．研究方法

研究開発は大きく、事例と標準的記載例、解説からなるコンテンツの作成と、作成したコンテンツを用いた教育効果についての評価からなる。研究初年度の本年度は標準的記載例の作成を中心に行う。

過去の経験、学会や検討会、カンファレンスなどで伝聞した情報も含め、専門領域における比較的典型的な事例を収集し、問題となる点や課題、記載が困難な点を抽出する。それらの問題点や課題を基に、学習用の事例を作成し、模範記載例（標準的記載例）を作成する。あわせてその記載内容についての注意点や解説も作成、内容の統一をはかる。

（倫理面への配慮）

事例集の作成に際しては、個人情報や個人が特定できるような内容は含まない。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、記載が困難な例、あるいは記載方法の判断に迷うと考えられる各領域での事例について、計20例の事例を設定（うち、宮武担当分は5例）し、それぞれについて適切な記載例を選択する問

題形式と、さらにそれらの解説からなる事例集を作成した。

D．考察

死亡診断書、死体検案書はわが国の死因統計を作成する際の資料となる。記載内容のうち、特に死因統計の基礎となるのが、死因欄に記載された傷病から選択した原死因であり、それに基づき死因が分類される。

死因統計は、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつであり、わが国の保健衛生行政や社会経済的に広く活用されている。

医師は死亡診断書・死体検案書の作成にあたり、それぞれの記載内容がどのような形で統計作成に利用されているかを熟知しておく必要があるが、現状での医師の重要性についての意識・認識は十分ではないように思われる。

本研究で作成した事例集を中心とした教育コンテンツを活用することで、適切な記載に関する知識を再度正確に理解するとともに、適切な原死因選択を行うことの重要性も啓発できる。自学自習可能な学習コンテンツの利用により、直接的・間接的に死因の精度向上につながるものと考えられる。死因統計の精度が向上することが、ひいては国民の健康増進や福祉の向上に大きく寄与していく。

E．結論

死亡診断書・死体検案書作成の際に、記載内容に迷う例や注意すべき事項について、が実際の事例に基づく課題を設定し、それぞれの事例に基づき課題を設定し、それぞれについて適切な記載例を選択する形式の問題を設定した。これらの成果は、死因統計の精度向上を介して、今後の国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1．論文発表

該当なし。

2．学会発表

宮武伸行、木下博之．窒息死の季節性、気温との関連．平成28年度香川県医学会，2016年11月3日，高松市．香川国際会議場

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
横田順一郎	特殊な受傷機転	一般社団法人JPTEC協議会	JPTECガイドブック(改訂第2版)	へるす出版	東京	2016	178-183
横田順一郎	編集	横田順一郎(編集委員長)	外傷初期診療ガイドラインJATEC(改訂第5版)	へるす出版	東京	2016	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tanaka N, Takakura A, Kinoshita H, et al.	Stomach gas as a useful matrix for detecting ante-mortem gas exposure. A case of asphyxia by helium inhalation.	Rom J Leg Med	24 (1)	21-22	2016
Tanaka N, Kinoshita H, et al.	Detection of kerosene in stomach contents - useful indicator of vital reaction.	Rom J Leg Med	24 (2)	128-130	2016
Kinoshita H, Tanaka N, et al.	Detection of butane metabolites as an indicator of butane abuse.	Rom J Leg Med	24 (3)	216-218	2016